

日刊建設通信新聞：2018年12月17日2面記事



日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

積算協会

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

この第1版では、建物と土木構造物の新設時の資本投下に対するICMSは、40カ国以上の職能団体と専門家グループで構成するICMSC（国際建設測定基準連合）とICMS基準策定委員会が開発。各国の積算基準や商習慣が異なる中、費用の表現や解釈の違いで提示額に25〜30%もの隔たりがあることが確認されるなどトラブルが増えている現状を踏まえ、発注者のリスク回避の共通概念としてプロジェクト費用を比較評価できる国際的な測定基準として整備。

発注者目線のコスト分類システム

世界をまたぐこの種の取り組みとして初めて2017年7月に発刊された英語版第1版を翻訳したものとなる。

日刊建設産業新聞：2018年12月17日2面記事

世界初のコスト分類国際基準 国際建設測定基準（日本語版）を公開 日本建築積算協会

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

表現、解釈が異なり提示額に25%から30%の隔たりがあった。そのため、共通の概念で詳細する国際基準の開発が16カ国23人の委員で構成する基準策定委員会により進められてきた。ICMSでは、発注者目線でのコストの適正な評価が行われるよう作成されている。具体的には、解説と4段階の階層別コードで建設コストを体系的に管理し、まずレベル1（プロジェクト名、コストレポ）の用途、発注者、プロジェクトのタイプ等でプロジェクトを特定する。プロジェクトを特定する基本属性を整理し、建物の場合は、レベル2で躯体自体の建設費（建設費）や国際評価基準（IFRS）や国際不動産評価基準（IPMS）と測定基準（IPMS）と

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、世界40カ国以上の建設関連団体で組織する国際建設測定基準連合（ICMSC）がまとめた国際建設測定基準（ICMS）の日本語版を作成した。土木・建築を問わず新設時のコストを世界標準のルールで算定するのに役立つ。同協会は、積算に携わる国内企業が海外プロジェクトに参画する際の参考書として活用を呼び掛けている。

ICMSは、国や地域によって異なる積算方法を統一化した建設コスト分類システム。建築物や鉄道といった構造物の種類を分類した「レベル1」から、上・下部構造物など詳細情報をまとめた「レベル4」で構成している。同書を活用すれば世界標準のルールの下、建物1棟の建築コストを算定できる。同時にプロジェクトの前段階に当たる土地購入や設

建通新聞：2018年12月18日3面記事

BSIJが日本語版ICMS公開
分類システムで一貫性のある国際評価

日本建築積算協会（BSIJ、吉田俣郎会長）は、国際建設測定基準「ICMS（The International Construction Measurement Standards）」の日本語版を作成し、ホームページ上で公開を始めた（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS_Japanese%20BSIJ.pdf）。

これはICMS連合が発注者目線で開発したコスト分類システムで、建築の他道路や鉄道、橋梁、プラントなどの土木プロジェクトも対象に、4段階の階層別コードで建設コストを管理する。プロジェクトの費用を事業費ベースで明らかにする。類似プロジェクトを比較して自己評価を算定する際や保留

床取得の際の目安として、災害による被災費用の算定に用いたりすることが可能。不動産流通市場の活性化にも寄与する。

国際財務報告基準（IFRS）や国際評価基準（IVS）、国際不動産測定基準（IPMS）と関連付けられており、建設市場の国際化が進む中、国により積算基準や商習慣が異なってもICMSを用いれば一貫性のある価格評価で建設コストを提示できる。

ICMS連合では今後、維持管理費などのライフサイクルコストを含む「第2版」の公表も予定している。

日刊建設工業新聞：2018年12月21日24面記事

日本語版ICMSの表紙

日本語版ICMSの表紙

ICMS

国際建設測定基準：建設コスト提示の国際規格

13日に東京都内で会見した吉田会長は「日本語版が完成し、より社会に貢献できると確信している」と述べた。同席した橋本委員長も「ICMSは発注者がより安心して投資できるツール。今後は発注者目線でコストを算定できる」と期待を寄せた。今後は維持管理にまで広げた日本語版づくりにも着手するという。

日本語版は、同協会のホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS_Japanese%20BSIJ.pdf）で無料公開している。

積算協会 国際標準でのコスト算定に